



柳 語

殺句八百題

小菟菴雄嶺遺稿
上

文庫	合三	藤井
冊之内	第	門第
卷	番	号



發

楷 諧

發句八百題

全二冊

小篆 篆 籀 頡 遺 禱
頡 頡 頡 頡 頡 頡 頡 頡 頡 頡

明 淨 寺 在 六 月 初 旬

東京

友 人 堂 苑 版

俳諧發句八百題 目錄

春之部

麗	氷解	餘寒	小正月	手鞠	福引	太箸	門松	初鴉	元日
陽炎	春雨	河返	とんこ	初霞	万歳	年男	松の内	初空	立春
東風	霞	春雪	七種	福壽草	子日	粒の子	雑煮	書初	今朝の春
春風	長閑	残雪	薺	睦月	小松曳	御降	屠蘇	吉方	花の春
草萌	遊鱒	雪解	若菜	正月	餅子	祝	遠笑	二水	礼

目一

慮

仙修題



土筆	紫萼	落臺	若草	木の芽
梅	白梅	柳	青柳	松の花
椿	八重椿	猫の戀	白魚	百千鳥
鳶	雲雀	駒鳥	蛭	海苔
春永	二月	夜更著	二日灸	春日
永日	遅日	春月	朧月	朧夜
春夜	養父入	出代	鳳巾	初夜
初櫻	紅襟	接木	挿木	五輪
種却	苗代	畑打	菜花	蒲公英
蕨	辛植	杉菜	焼野	野
菊苗	角芦	水あぐり	春の水	春
帰雁	雉子	雀子	月	雀

鳥の巢	蛙	蝶	田螺	飯蛸
鮎鱈	初午	新能	涅槃會	彼岸
三月	彌生	雛	草餅	汐干
春海	別霜	佐保姫	山笑	春山
桃	櫻	山櫻	花	花曇
花雲	遅櫻	海棠	梨花	辛子
石楠花	躑躅	藤	山吹	薊
堇	草摘	雲入鳥	麥鶉	春鳥
若鮎	夏進き	夏隣	春の暮	行春
春混雜				

四月	初丁	夏之部	初夏	更夜	初拾
花御堂	短夜 三丁	明安夜	筑摩祭	灌佛	
芥子花 五丁	夏書 四丁	牡丹	芍藥	杜若	
茨花	一八	卯花	花卯木	苔花 六丁	
葉櫻	桐花	殘花	枳花	栗花 七丁	
夏木立	葉柳	若楓	若葉	新樹 八丁	
新麥	茂リ	木下間 九丁	青嵐	麥秋	
周燕	箏	初茄子 十丁	初鯉	松魚	
蝙蝠	鳩鳩 十一丁	葭原雀 十二丁	行々子	老鶯	
蚤	蚊	蚊遣火 十三丁	兩蟻	蠅	
	蝸牛 十四丁	毛巾	兩蛙	枝蛙	

初螢	五月雨	田植	竹醉日	袖花	紫陽花	藻花	紅花	青鷺	夏川
螢	五月晴 六丁	田植唄 七丁	青梅 八丁	櫻櫛花	凌霄	萍	瓜花	甕子	夏山
鶯	扇 九丁	入海	青田	櫻實	花昔蒲 十丁	百合	鳩浮巢	火串	夏野
鮎	團扇	早苗	田草取	桑實	櫻花	夏菊	水鷄	照射	六月
鮎	日傘	早乙女	若竹	盧橘	百日紅	河骨	夏草	羽拔鳥	水無月

目三

水室 <small>丑六丁</small>	川狩	汗	夕涼	夕立	蓮	撫子	真桑瓜	水馬	秋迫	夏果
夏水	暑	汗拭	涼臺 <small>丑九丁</small>	夏雨 <small>丑一丁</small>	白蓮 <small>丑二丁</small>	釣葱 <small>丑二丁</small>	葛水	火取虫	御杖	夏混雜
祇園會	土用 <small>丑七丁</small>	夏月	納涼	清水	蓮見	綿花	冷汁	蟬	御杖川	
月鉾	土用入	涼 <small>丑三丁</small>	風薰	苔清水	晝顔	茄子	一夜酒	蟬時雨	茅輪	
富士雪解	昼篠	月涼	雲峰	蕈	夕顔	瓜	沖繪 <small>丑三丁</small>	栗 <small>丑四丁</small>	形代	

俳諧装束八百題考部



元日

やつとあつと元日只一日の礼

元日やまぐいあれとあをれ

えりやわねくまをさのりくくは

えりよ余をくくあを海小

秋のくちふまをさの燈くは

あをくまをくく川風の吹くく

あをくまをくくくくくくく

あをくまのゆりくまをくくく

小菘菴確嶺選
柳の屋風齋校

立春

鳳朗
一金蓮
聖石
白駒
全全
敦訓

吉方 若水 門松

玉川の清らぬ名水に毛髪
 稚子の心より多し草より乞
 朝の露も露も草の葉
 山の井と歩くはくまの草
 庭のやえをまじりて
 那ふまじり物吉方し梅柳
 家内中まの仲のあや吉方柳
 若水の多梅木ちりの先うね
 若水ふもやうつり人
 つまふまじりのねん二日
 門松をばて山若水もれ

肥後 諏訪 江戸 大坂 信州 秋田

千 春 一 具 惟 草 桂 素 交 輝 志 德 梅 竺 梅 室 若 人 文 路 其 山

松の内 雑煮 屠蘇

門松や名水に若水の所つき
 山若水の多梅木ちりの先うね
 若水ふもやうつり人
 つまふまじりのねん二日
 門松をばて山若水もれ

肥後 諏訪 江戸 大坂 信州 秋田

千 春 一 具 惟 草 桂 素 交 輝 志 德 梅 竺 梅 室 若 人 文 路 其 山

松の花

さくらやゆめ白ひのまふさ
青柳やさうむるはれくまゆり
ゆきかたふ男さうくまふり
まねのうりうりてきききき
エもれくまきききき
ちりまきききききき
ゆきかたふ男さうくまふり
まねのうりうりてきききき
エもれくまきききき
ちりまきききききき

椿

縣山 而後 雲鳥 拈十 澗鯉 露夕 左栗 逸洲 梅室 紫麥 今殖

八重椿

猫の意

白魚

百千鳥

花のよめゆめ白ひのまふさ
ゆきかたふ男さうくまふり
まねのうりうりてきききき
エもれくまきききき
ちりまきききききき
ゆきかたふ男さうくまふり
まねのうりうりてきききき
エもれくまきききき
ちりまきききききき

英州 全全 虎窓 全全 耕雲 守彦 緑田 拈十 悠平 白光

寫

子の戸や花のちりてく百ふきの
 くれあそふ松をしりてくちりて
 雪やこれハそと後ゆきゆく
 美もみちのちりてく雪のほろり
 雪やまじりてくちりてく雪の
 美もや風とつらつら一幸
 美山や雪のちりてく雪のこと
 雪やと雪のちりてく雪のちり
 うらみとや小松のちりてく雪の
 雪をまじりてくちりてく一人
 雪のちりてくちりてくちりてく
 うらみとや松のちりてくちりてく

都久裳 北十 鳳朗 野菓 呂川 大鷗 由誓 椎崗 蓬翠 今 春 露 夕

雲雀

駒鳥

雪や松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく
 美もや松のちりてくちりてく

山中 樵夢 江三 芭行 為山 松葉 路雪 梅室 斗米 湖照

永日

夫のりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州

志 逸 茶 暉 木 以 玩 秋 嘗 其 都
德 章 靜 調 朝 芝 兄 甫 桂 二 山 久 母

遅日

春の月

夫のりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州

其 嘗 秋 玩 以 木 以 玩 秋 嘗 其 都
山 二 桂 甫 兄 甫 桂 二 山 久 母

朧月

朧夜

春夜

夫のりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州
まのりや 終る ありて 信州

既 戸 東 乙 心 護 梅 雀 鳳 五 茂 長
醉 水 岡 良 靜 物 室 石 諤 推 莊

畑打

美代や人の晴し苗代田
親の心こもる苗代田
苗代や苗代とけの石の海
おろろ〜門をくぬるもくけい
畑やあけく〜をを屋く〜
畑やよあ〜可〜、娘、藤、うれ
畑やよあ〜く〜く〜く〜
葉のよあや月あ〜く〜く〜
葉のよあや月あ〜く〜く〜
葉のよあや月あ〜く〜く〜
葉のよあや月あ〜く〜く〜
葉のよあや月あ〜く〜く〜
葉のよあや月あ〜く〜く〜

白 全 全 溶 濱 確 都 守 大 李 花
 全 全 々 吉 嶺 之 三 喬 葉 暁
 白 全 全 溶 濱 確 都 守 大 李 花
 全 全 々 吉 嶺 之 三 喬 葉 暁

菜花

五加木

種印

苗代

花の中を流〜き〜木や折さ〜
五加木版は〜く〜は〜く〜
人の親の〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜
人の親の〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜
おろろ〜を〜く〜く〜

招 全 凡 確 和 負 確 乙 松 金 梢 合
 十 奇 嶺 万 袋 嶺 良 年 桂 月
 十 奇 嶺 万 袋 嶺 良 年 桂 月

三

奠

帰雁

うらりーき程の帰る下まのあ 行脚 鳥谷
 けりー垂下の中やまのあ 緑田
 物さけけりー棚いんせぬしきい 逸
 居たりーあそまのあなりー花 正枝
 乙もあけけりーあそま 志
 あそまのあ入りーあそま 花井連 一 犬
 あけけりーあそま 思 雄
 けりーあそま 由 誓
 けりーあそま 未 山
 けりーあそま 毛 翠
 けりーあそま 而 水
 けりーあそま 后

雉子

雀の子

けりーあそま 西国 関 光
 けりーあそま 北越 多代女
 けりーあそま 北越 車 外
 けりーあそま 武忍 羽 魚
 けりーあそま 武忍 夏 木
 けりーあそま 武忍 砺 山
 けりーあそま 武忍 鶏 周
 けりーあそま 武忍 都 裳
 けりーあそま 武忍 錦 裳
 けりーあそま 武忍 碓 嶺
 けりーあそま 武忍 護 物

干

草餅

むかろくふきつる夜の鐘は
 眼うつりのもくれ鐘のふり
 鐘の戸ふらぐくあめや古
 茶椀 志くぬ鐘くく
 んくく せんふひらくや鐘の
 鐘くく 鐘るうけき鐘ふく
 柳さくく 鐘るうせや鐘の
 鐘餅や空ひくあきうく
 りり文や白て行き葉の
 葉ゆちや柳ハ 志の葉き
 志かふのふく 志くく 志の
 志くく 志るの志く 柳干

仁 堂
 雪 船
 太 郎
 都 久
 白 龍
 全 全
 全 全
 味 全
 風 羽
 苞 竹
 礎 巖
 松 竹

春の海

別箱

佐保姫

りをみて時をすあふ干か
 志速て行くもくくく干か
 浪くくくくくくくくくく
 夫の海くくくくくくくく
 春の海くくくくくくくく
 鳴くくくくくくくくくく
 鐘をくくくくくくくく
 教くくくくくくくくく
 又後くくくくくくくく
 去るくくくくくくくく
 何くくくくくくくく
 佐保姫や志くくくく

秋 朝
 正 枝
 伯 夫
 長 庄
 木 芝
 碓 巖
 鳳 石
 陽 山
 全 齋
 風 齋
 佳 風
 高 庵

山吹

山吹やあふ吹てとちりあき
山吹やあふ吹のえんく
山吹やあふ吹て居る代さ
山吹やあふ吹ふらぐ
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる

春 泉
全 全
全 伯 夫
静 々
緑 田
菊 庄
季 春
湖 雪
錦 如
碓 嶺

薊

薑

摘 草

雲ノ入鳥

山吹やあふ吹てとちりあき
山吹やあふ吹のえんく
山吹やあふ吹て居る代さ
山吹やあふ吹ふらぐ
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる
山吹やあふ吹のふる

由 誓
千 雀
乙 崖
乙 人
琴 宇
西 良
碓 馬
碓 嶺
崔 步
正 枝
善 染
金 遊

麥 鶉

鳥をくふ入なる事ある小田の妻
舟おせそまるとあつらやきふる
おのちりわてつふらり 麦 鶉
うらなを志す日形 麦 鶉
百姓の杖やいさしむき 鶉
去の鳥人の中をまの鳥
蓬萊の草よりたぐま此鳥
物なとりまふ音日や春の鳥
ろくちをさるるのちる小館引
る 鶉やすしるあをまの之
網の目とわけて飛り小館引
ゆやせぬ杖のぬらり交をき

雞 周
一 確 川 享
全 全 器 水
全 全 全 全
飯 湖 芦 梅 全 全 器 水
備 壺 江 價

春の鳥

若 鮎

夏 虫 ぎ

薑

はらへささとうらんとてあつらる花葉
有らなくとやうりのせぬ薑の根
ゆりとして難ふとらぬまをこれ小
薑くくくおのまんさくいあうりら
ゆりのるる油のとさるし 薑
吸売のりあるまきゆのすまこれ小
根の全と柳うらとまを薑の非
崎乃平油押とされて薑とこく
多つこの長るや三井の後の春
一群の皆見事な小葉 つむ
まらこの薑ふらうらや 夢田川
まらまらまらあまの 旅 小

由 曹
千 雀
雄 崖 人
乙 琴 宇
乙 琴 宇
西 馬
確 嶺
雀 步
正 枝
善 染
金 遠

摘 草

雲 入 鳥

麥 鷄

鳥をよふ入かのさき事あ小田のま
舟あせそまよふあなるやそふも
おのるハおそくあなる麦 鷄
くくおそくあなる日形一麦 鷄
百世のあやいそく一むき 鷄

鷄 周
一 確 川 享

春の鳥

まのまの人の中ままの鳥一
さきまの華よりおくまれも
物まよふまよふ春日や春の鳥

器 水

若 鮎

くくおそくあなるのあなる小鮎引
若 鮎やよふるおそくまのま
細の目とわかれておひ小鮎引
ゆかせぬおのあなるまをま

梅 價
湖 江
飯 雪 嶺

夏 近 き

夏 隣

春の暮

夏 近きまよふや松の枝の移り
まよふまよふや松の枝の量り
終 奥 奥のまよふおく一交隣
ついでまのまよふまよふや松のま
まよふまよふまよふや松のま
まよふまよふまよふまよふのま
印ついでまよふまよふまよふのま
おのまよふまよふまよふのま
まよふまよふまよふのま
まよふまよふまよふのま
まよふまよふまよふのま
まよふまよふまよふのま

白 外
河 梁 崎
格 十 嶺
確 嶺 二
介 二 嶺
飯 嶺 二
風 崎 路
文 路 崎
全 路 崎
全 路 崎
白 嶺

打春

春の川原よふあけくくさくはらぬさくら
りまやあけのつらふとてあけ
りまやあけのつらふとてあけ
あけのつらふとてあけ
あけのつらふとてあけ
あけのつらふとてあけ
あけのつらふとてあけ
あけのつらふとてあけ
あけのつらふとてあけ
あけのつらふとてあけ

白 二 緑 秋 霞 全 全 全 松
嶺 松 田 朝 城 桂 水 杏 雨

雑題

伸るやうな春ふつやうな煙のま
をいふやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま
伸るやうな春ふつやうな煙のま

露 静 正 金 嵐 久 在 勾 見 官 雪
夕 枝 桂 外 輪 我 外 翠 窓

罌粟花

杜若乃の榮る植を夢
茶のあは草入宿ふり杜若
はえやもききまるとハアをえんれ若
八まけーの人まらゆる根根
白けー物まをまらゆる根根
嗚とーいんせーとけーの海
とまねてちかたての罌粟
赤きとれとのまらゆる根根
悪く大根まらりけーの花
けー罌粟やふくまらゆる根根
一ハのきののまらゆる根根
一ハや寺と藤の法師のな

全 兎 碓 瓜 仙 靜 屈 梅 淡 全 全 都 久 裳
州 嶺 正 翅 々 白 室 叟

卯花

一ハの花ふかりちかたての海
卯の花や迷おーぬく春 夢
うのまらゆる根根のまらゆる根根
卯花ふかりちかたての海
おむや一十日晴てるるよなれ
卯花やまらゆる根根のまらゆる根根
うの花ふかりちかたての海
卯の花よまらゆる根根のまらゆる根根
卯の花ふかりちかたての海
卯の花やまらゆる根根のまらゆる根根
卯の花ふかりちかたての海
卯の花よまらゆる根根のまらゆる根根
卯の花ふかりちかたての海

全 而 秋 全 喜 全 金 雀 鼎 喜 大
后 朝 月 桂 湖 長 月 喜 喜
一 叢 眠 長 月 喜 喜

花卯木

苔花

うらたの道きくく口や花うつ木
よくふるめぬて咲くむ卯本
赤糸のよれい落るや苔の花
さけしゆやあふくそてらん苔の花
苔の花じくくくの咲く
はまけうふあや後進して苔の花
存くくそ糸のあやうけの花
おもしろくさのあやうき花うね
茨屋やふあそとるよ山岳あく
かりきくそやあうくくく後の花
岸杖いあやあうくん花
茨の花るの中ひさう少計了

玩 長 秋 千 彩 金 飯 一 湖 白 市 確
甫 莊 帆 春 之 波 茶 照 雪 峰 猿 嶺

茨花

桐花

残花

榊花

何らふ物さあさく桐の花
はらふい風のあまむじや桐の花
清の香けきくちうりり桐の花
折くあふあふあはらきりの花
桐の花はくもつらぬくもさう花
残る花あいの川を名跡
折うあは枝つたはるやあるむ
えんえんのらる咲やのころ花
花の耐うらう樹の本振か
あけうら 宿むもさあけり樹の花
あふぬ日を今日のかさく榊の花
秋よりい樹のさうさう樹の花

逸 和 季 米 柳 柳 柳 風 白 淡 太 休
洲 風 春 壽 圓 西 園 齋 誓 豊 郎 輪

栗花

葉櫻

葉柳

於振也にみす薄く竹の花
 啼くも岩邊のけりかきの花
 本合の意佛のくもを栗乃荒
 晴くもて吹くも雲やけり此京
 かとまするもまるとううう栗の巻
 栗乃櫻也まの森野ふんく本末
 栗乃櫻也ふん吹るき花の向
 まうあけりうくまのうけさし櫻乃
 葉くくくも和とまのけさのる
 葉乃櫻也まあかす葉乃櫻の月
 迎くくくもあれ葉乃櫻の極乃
 多乃櫻也けりまうまうく後とる

瓜 確 雀 石 九 逸 李 雅 葵 青 苞 句
 正 嶺 叟 菜 華 洲 葉 章 園 廟 竹 外

若柳

若葉

まうあけりうく和とまのけさの
 芥くくくも一葉のまうあけり
 月と櫻くく荒のまうあけり若柳
 まうあけりまうあけりまうあけり
 鶴のまうあけりまうあけり
 秋とあけりまうあけりまうあけり
 けりまうあけりまうあけりまうあけり
 流くくくも階乃干あけりまうあけり
 多とくくもまうあけりまうあけり
 丹陽くくもまうあけりまうあけり
 境のくくもまうあけりまうあけり
 皆止てりまうあけりまうあけり

風 碧 逸 乙 干 文 全 瓜 鳳 黃 而
 齋 山 洲 良 本 路 正 朗 山 后

初菰子

初鯉

松魚

竹のふの竹を奈もくぬふり
秋萩の多き竹のふ霞ひらり
ちいさい中を箱うきや細菰子
細きうふの形ハあつぬ菰子
序陣屋のちてふふハや細鯉
初松魚ふれハあつてきられり
溝とせきあつてあやま川鯉
湯の中うふふをきつや細鯉
きあふふの形ハあつてきられり
清のよきてをしぬ初河川を
一府のみわらひきり松魚
昨日今日見えてたつてき鯉

月 而 菊 蓬 鳳 湖 月 瓜 露 氷 丁
貨 后 泉 流 朝 雪 坡 正 井 白 壺 知

周燕

人々ふおえり鯉の料理
かけそとそをきふむや部公
そとそ日の又き川や霞公
松魚ハあつてきられり
ふあ序陣屋や所傳の松造り
秋萩をれて冷てきり
ほとつきりゆや時ちく小松系
きあふとけきてあつてき鳥
あつてきりゆや時ちく小松系
馬ねちや後ある山のり
二まらふをてと山や部
ちうぬおれちうて傳はれれ

六 梅 呂 芦 淡 祇 宜 大 訖 全 全 一
瓢 室 川 山 叟 白 明 齡 月 具

杖とるせそ日のくくくとるぬ時
 杖をりあそくうり明て志まひたり
 杖をりなくやも縁屋板のま
 くれて明くけりてききりて時を
 法曆の青くくうやほくくきき
 本の音ゆる口をぬふ文く意相
 啼きそふ杖の鳴あくう杖をり
 月のあそ遊くを山修の霞云
 田々なくやあがりー山の舟
 伝きそこのぬきおまき新ふ杖をり
 ほくききり耳あー山の舟をり
 ききりい杖の舟あがり不知帰

萬嶺 風外 千春 全全 流芝 社流 春水 卓洲 既醉

鳩 鳩

啼きの中あゆむり霞云を
 くくくくくくくくくくくく
 まくくくくくくくくくくく
 杖のハツの時をさるり男魂
 耳のあそ時あくくー不知帰
 まくくくくくくくくくくく
 杖をり夜のまをぬり杜鶴
 山のあそまをさるりあめぬ
 とくくくくくくくくくくく
 国古鳥のあそくくくくくく

女好 静々 雪呂 擗由 双鷺 杜鷺 松年 島嶺 碧山 涛鯉 暉潮

故遣火

故をよもすもくしりやけ 爰
故のそとふたててや哀の月おす 信州
おつらつたきおしてくる 義故 常陸
持くあるものさうき 改きす
まゝおのころもさうり 故き盾
ゆゑのきや改きゆき人お
分ぶあぬく 焚さの改きす 武及
能もふもさうふけさる 改ゆす
松ふえふゆふ 遠みや改故
一人持て 改きぬらり 樹の中 北前
まのうや物持持く 一や 北前
改きつらぬおのらつてき 改故 北前

白 伯 幸 乙 九 珪 太 鳳 嵐 洞 眼
駒 齋 雨 左 良 華 彦 明 外 天 長

蠅

蠅

蠅

きつらぬたさうさうや 蚊 其
山の端ふぬくさうり 蚊の月 宜
葉かぬらぬく ぬふ 端のらる 静
松さうの母とよえ 改きゆの端
母のちて 端のらる 改き 北前
何の端のちて 改き 北前
居たりたりやさうさう 端の端 北前
改き 北前
おつらつたきおしてくる 義故 常陸
持くあるものさうき 改きす
まゝおのころもさうり 故き盾
ゆゑのきや改きゆき人お
分ぶあぬく 焚さの改きす 武及
能もふもさうふけさる 改ゆす
松ふえふゆふ 遠みや改故
一人持て 改きぬらり 樹の中 北前
まのうや物持持く 一や 北前
改きつらぬおのらつてき 改故 北前

其 宜 静 鼠 小 一 北 野 茶 盛 水 瓜
山 明 齋 魚 柱 亭 菓 静 白 佳 正

蝸牛

角先のまろや夜明けのつら
ふらふらとくつらとくつらと
ふらふらとくつらとくつらと
白濁ふらふらとくつらと
お日あふふらとくつらと
銀ふらふらとくつらと
本使ふらふらとくつらと
あさうまふらとくつらと
ふらふらとくつらと

雀 遠 桃 和 撞 洪 確 白 大 飯 湖 南
隻 洲 之 月 雄 石 嶺 桂 木 椿 松 貸 空 池 之

毛虫

雨蛙

枝蛙

初螢

螢

落るてあやふらとくつらと
まはくまはくまはくまはく
えのまふらとくつらと
本のまふらとくつらと
まはくまはくまはくまはく
あさうまふらとくつらと
ふらふらとくつらと
まはくまはくまはくまはく
あさうまふらとくつらと
ふらふらとくつらと

秋 湖 梅 白 鳳 大 可 月 梅 悠 卓 由
帆 雪 通 駒 朗 椿 松 貸 空 池 之

鶴

さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに

為 中
蓬 翠
鳳 石
桃 静
確 嶺
鳳 朝
李 兼
九 起
舟 考
白

冬 日

冬 月

さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに
さるべきもや雪のそらに

全 全
白 全
双 千
行 千
推 行
卓 推
芭 卓
凡 芭
可 凡
全 可
笑 齋

五

信州
上田

冬 山

その月皆を山とありふたり
かゝ風の頃多きうそそその月
小あまうく燈籠細くやその月
敦閑とくくくくくくくくく
花の多ハあはれくくくくく
その月 桜のくくくくくく
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

雪 祖
一 麗 水
全 全
竹 堂
墨 芳
一 扼 止
柳 園
春 齋
春 齋

世 粽

辻 花

夏 羽 織

川風や梅のうき 接るちよた売
うけやけや故のあてやるる 粽
解売の張走うりある 粽
あえよき歌まの才やゆき 粽
あまなまきやあまのく 長一逆 粽
あまなまきやあまのく 長一逆 粽
あまなまきやあまのく 長一逆 粽
あまなまきやあまのく 長一逆 粽
あまなまきやあまのく 長一逆 粽
あまなまきやあまのく 長一逆 粽
あまなまきやあまのく 長一逆 粽

鳥 谷
鳳 朗
卓 池
鶏 周
由 誓
湖 空
桂 稚
白 雨
逸 淵
而 后
不 山
一 豊

青梅

櫻實

桑實

此種くわく志道くわく海の香伊豫
 青梅や子枕の香る 岬の文
 青梅やゆふにれたる尾の垣
 青梅や市とついで人を出せ
 青梅ふとく梅二ふや二人た
 了よよつとくあふ拾ひぬ梅の實
 青梅や屋敷の香るく咲るを
 梅もやうきつとくあふ梅の實
 實梅や酒飲くくく山の香
 桑の香るく梅先をみる 腹子小
 桑の香るく梅くつとく城の香
 桑の香るく二人金代とく香るを

太 木 全 瓜 蛎 味 水 桃 三 大 風
 華 芝 正 山 香 竹 靜 蘿 齡 齋

盧橘

柚花

櫻欄花

素の香やけり戸扉きてりくは賣
 橘やむくりの友ハ月ひとり
 橘やまの香とけりるやを双窓
 橘や雪の香とけりるを双窓
 橘や雪の香とけりるを双窓
 橘や月よふるよふるらー望山
 柚の香よふるの香とけりるを双窓
 よいものくくくくくくくくく
 むれくくくくくくくくくくく
 花の香るくくくくくくくくく
 花の香るくくくくくくくくく
 花の香るくくくくくくくくく

確 會 旬 枯 葛 風 金 全 全 違 惟 露
 嶺 翠 光 十 堂 齋 桂 陽 草 柱

合歡花

あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の

湖雪 林輪 一豊 護物 對橋 梅笠 松十 風齋 柳園 綠嶺 蘭事 小魚

樽花

百日紅

あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の

湖雪 林輪 一豊 護物 對橋 梅笠 松十 風齋 柳園 綠嶺 蘭事 小魚

紫陽花

凌霄

あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の
あつたのうらつて 袴の

湖雪 林輪 一豊 護物 對橋 梅笠 松十 風齋 柳園 綠嶺 蘭事 小魚

照射

虎雨

夏川

夏山

ニおろす夏葉はけりよるほろけりか上毛
 松のあはれはそれゆゑの思射は
 松置のうらまはらむとともも
 それこそまの影へありと思射は
 ぬきくともさのしきりれり序りる
 一日のぼろおろけりてりりる
 ぼろしてとらむりり序り雨
 るはふあうれりりり夏の川
 るふまよとちまらりり夏の川
 は水のうらまはらむり夏の山
 とらまのぼろまらりり夏山
 るらまらりり夏山

逸 美 徳 郎 一 豊 干 魚 露 井 玉 芝 風 齋 龜 龍 虚 白 柳 眉 今 桂 秋 桂

夏野

六月

水無月

秋と入るまきりり夏山上毛
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山
 秋と入るまきりり夏山

竹 烟 雀 叟 季 春 金 令 小 魚 岐 山 千 隣 風 齋 枯 十 風 千 春 風 齋

氷室

唯このる風といふ一箇室は

信州

梅堂

夏水

此室は川の口のてててててて
其もれとてぬお室のおお
今もてててててててててて
此もれとてててててててて
とてててててててててて

註川

金飯

祇園會

祇園今や人のてててててて
月夜もてててててててて
月夜もてててててててて
月夜もてててててててて
とてててててててててて

志得

月餅

木太郎

富士雪解

川狩

とててててててててててて
不二の雪もてててててて
川狩やてててててててて
川狩やてててててててて
河狩やてててててててて
川狩やてててててててて
多記とてててててててて
とてててててててててて
とてててててててててて
並松のててててててて

尾取

下毛

全 玩 龜 堂 應 確 逸 由 冬 河 松 大
浦 室 知 嶺 洲 警 丘 梁 雨 齡

涼

夏の月を庭で照る人まは小
戸のまはぬ影のまの影のまの影
藤のまの影のまの影のまの影
入るまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影

嘉 松 萬 龜 遠 陽 全 東
蝶 臺 嶺 龍 草 山 葵 鯉 山

月 涼

涼のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影

全 志 江 東 清 陽 自 東 立 春 九 喜
遊 洋 堤 山 來 山 志 星 夏 雲

夕 涼

夕涼のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影
まの影のまの影のまの影のまの影

喜 雲

夏雨

清水

昔清水

夕三和 遊藝とさるる 雨のつ
 のつとらやをのつををばてり
 中野のらき 降にや夏の雨
 山やハあふやふのや夏の雨
 夏の日やるもあはれ湯田川
 松尾のあふ清水あはれ湯田川
 我ららあふてあはれ湯田川
 庭らあはれ湯田川あはれ湯田川
 清水あはれ湯田川あはれ湯田川
 湯田川あはれ湯田川あはれ湯田川
 湯田川あはれ湯田川あはれ湯田川
 湯田川あはれ湯田川あはれ湯田川

汪東 雀雪 風静 一鳥 龜梅 卓白
 洋堤 史旭 齋々 朗霞 竜菫 郎駒

草

蓮

秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水
 秋あつと風は冷々々 昔清水

李葉 金桂 句春光 李春 秋柱 風齊 一具 椿杖 南杖 鼠外 太魯 北場

夏果

形代ままとまきくさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう
かきくさうさうさうさうさう

支路 全柳 秋桂 玩甫 萬嶺 寸長 兵城 一瓢 又龍 鷗淵

夏混雜

川持やいつらおと みるにの月
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう
さしむくのさうさうさうさう

伊豆 兵城 一瓢 又龍 鷗淵

